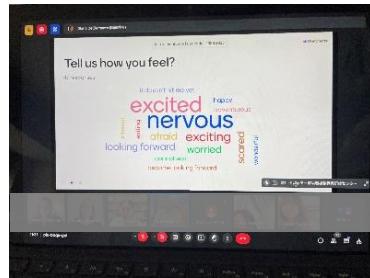


第12期Bコース（アメリカ合衆国）出発レポート

令和6年8月16日（金）に羽田空港からアメリカ合衆国への出発を予定していましたが、台風7号の影響により、搭乗予定の便が欠航となり、出発が延期されました。そのため、アメリカ合衆国到着後に実施予定だったオリエンテーションを急遽、出発前にオンラインで行うこととなりました。現地スタッフからは、留学中に気を付けることや大切なことについて英語で説明がありました。ホストファミリーと過ごす上で大切なこと、学校生活で挑戦してほしいこと、自身の感情のコントロール方法など、研修生一人一人が改めて考える機会となりました。オンライン上でも、研修生は現地スタッフに積極的に発言・質問をしていて、英語でのコミュニケーションを図ろうとする姿勢は大変立派でした。「How do you feel now?（留学を直前に控えた今、どのような気持ちですか。）」という現地スタッフの問い合わせに対して、多くの研修生が「nervous（緊張している）」「excited（わくわくしている）」と答えていました。「afraid（怖い）」や「worried（心配している）」といった不安を示す反応もありました。新しいことに挑戦する時、誰もが不安を感じるものです。オリエンテーションでは、困ったときの相談の仕方や相談相手についても現地スタッフが研修生たちに説明をしました。



<オンラインオリエンテーションの様子>

8月22日（木）午後2時40分、約1週間の延期を経て、第12期Bコース（アメリカ）の研修生たちが無事にデトロイト・メトロポリタン・ウェイン・カウンティ空港に到着しました。

出発地の羽田空港では、多くの保護者が見送りに来ており、名残惜しそうにしている研修生の姿が見られました。一方で、出発式で事務局の話を真剣に聞いている姿からは、これから約10か月間の海外生活に向けた決意が感じられました。また、デトロイトの空港に到着した際には、CAさんから研修生に向けて「10か月間の留学生活を大いに楽しんでください。」という機内メッセージが送られ、多くの方々の支えにより、ついに海外に来たのだという実感が湧いている様子が見て取れました。

デトロイト空港では、ホストファミリーが研修生の名前の入ったプラカードを持って待っていました。約12時間のフライトで少し疲れた表情を見せていた研修生たちも、自分の名前が呼ばれると、大きな荷物を持って緊張した面持ちでホストファミリーのもとに歩み寄り、これまで学んできた英語を駆使して笑顔で挨拶を交わしていました。その際、他の研修生たちは「頑張れ」「元気でね」と声をかけながら手を振ったり、拍手で送り出したりしており、これまでの約1年間の国内研修で培われた仲間意識が感じられました。

ホストファミリーが迎えに来られなかった研修生は、現地スタッフの引率のもと、車や国内便を使ってホストファミリー宅に向かい、全員無事に到着しました。次の日から留学先の学校に出向かなければならない研修生も

いましたが、その晴れやかな表情からは、自分なりの目標を持ち、主体的・自律的に学ぼうとする姿勢が見て取れました。

これから留学生活では、様々な困難が待ち受けていると思いますが、失敗を恐れずに粘り強く立ち向かうこととで、異なる文化や習慣、考え方を尊重する資質・能力を育成し、何よりも世界の一員として主体的に社会に参画できる次世代のリーダーに成長してくれることを期待しています。



<羽田空港での出発式>



<デトロイト・メトロポリタン・ウェイン・カウンティ空港での集合写真>